

# 夜明け

キリストの御臨在の使徒



# ザ・ドーン・マガジン

2025年8月

## 目次

<b>特集記事</b> .....	<b>2</b>
神は祈りにどう答えるか .....	2
<b>聖書研究</b> .....	<b>18</b>
神の建物.....	18
聖霊の宮殿 .....	22
もはや他者ではない .....	26
賛美の犠牲 .....	30
生ける石.....	34
<b>キリスト教の生活と教義</b> .....	<b>38</b>
火で試された金 .....	38

聖書と共に歩みましょう！

## 特集記事

### 第1部 (全2部)

# 神は祈りにどう答えるか

**「私は、すべての場所で、怒りや疑いなく、聖なる手を上げ、祈ることを願っています。」**

**1テモテ2:8**

私たちは、神が私たちの祈りに答えてくださるとどうして確信できるのでしょうか？祈りへの信仰を表明するだけでは不十分です。例えば、数多くの親が祈り、神に子供を戦場で守ってくださるよう願ったにもかかわらず、子供たちが戦死したり重傷を負ったという知らせを受け取ったケースがあります。また、祈りへの信仰を表明しても、一国が平和を祈っても、しばしば戦争の渦中に巻き込まれる理由も説明できません。

一方、子供たちの安全を祈った祈りが神に答えられたと証言する人々が何千人います。他の人々は、祈りで求めた特別な祝福を神が素晴らしい方法で与えてくださったと証言します。経験だけに基づけば、神が一部の祈りに答え、他の祈りに答えないよう

に見えるのは、（当然のこのように思えます）

しかし、これは聖書が神について教えていることと一致しません。聖書は「神は偏りを持たれない」と述べています（使徒行伝10:34）。したがって、神が一部の祈りに答えて他には答えない理由が必ずあるはずです。その理由を見つけることができれば、祈りが無視されたように思える人々の信仰を回復する手助けとなるでしょう。

祈りはキリスト教体験の非常に重要な段階です。また、多くの他の宗教の信者たちによっても広く実践されています。祈りたいという願望は、私たちが高次元の力への依存を認め、自分たちよりも外にあり、より賢い何らかの源からの助けが必要だと気づいた表現です。疑いなく、神は祈りを通じて彼と接触しようとするすべての人の真摯な願望を喜ばれます。なぜなら、少なくともこの点において、それは高次元の主権的な力への認識だからです。

祈りたいというほぼ普遍的な衝動は、最初の男アダムが神の形象に創造された事実によるものです。（創世記1:27）人間の罪と死への墮落により、その性格における神の形象は大きく曇り、多くの場合ほとんど消え去ってしまいました。しかし、その残滓は依然として存在し、その一つが祈りたいという衝

動です。祈らない人々が何百万人もいる一方で、祈るべきだと感じ、祈らないことへの罪悪感を抱く人々もいます。

神は、被造物における祈りの精神を喜ばれます。しかし、なぜ神は一部の祈りを聞き入れ、他の祈りは無視されるのでしょうか？イエスは、当時の多くの人々の祈りについて語った中で、この質問への答えを暗示しています。彼らは人に見られ、聞かれるために祈り、神が彼らの「多くの言葉」のために聞き入れると考えたと、イエスは説明しました。(マタイ6:5-7)。これにより、祈りには適切な態度と不適切な態度、正しい方法と間違った方法があることが思い出されます。祈りに入る多く的人是は真剣かもしれませんが、その方法は不適切です。

聖書は、祈るべき適切なことと不適切なことがあることを示しています。使徒ヤコブは書きました：「あなたがたは求めるが、得ないのは、あなたがたが間違ったように求めるからです」(ヤコブ4:3)。神に恵みとして与えていただくべきものを明確に知ることは、極めて重要です。私たちの気まぐれが求めるものを神に求め、その祈りが聞き届けられることを期待することはできません。

## 祈りの目的

祈りには神聖な目的があります。このことを心に留めておくことは、なぜ一部の祈りが答えられないのかを理解するために極めて重要です。神は祈りを、この地上でのご自身の御業の管理方法を知るための手段として設計されたものではありません。神は私たちに、ご自身が何をすべきか教えてほしいと望んでおられるものではありません。神にはご自身の定められた計画と目的があります。私たちが神の祝福の豊かさを受けるためには、私たちの祈りがこれらと調和していることが不可欠です。ヤコブの言葉を用いれば、私たちが神に祈る際に、自分の願いを神に伝えるだけで、神のご意志が私たちの生涯に実現されることを求めない場合、私たちは「誤った祈り」をしているのです。

聖書では、さまざまな種類の祈りが示されています。その中でも最も重要なのは感謝の祈りです（詩篇92:1）。神は、被造物が彼を祝福の源として認め、そのために心と声を上げて感謝を捧げることを、間違いなく喜ばれます。

創造主の性格の栄光ある属性——知恵、正義、愛、力——を認める賛美の祈りもあります。神を栄光

化し、その性格への賛美を示すことは、私たちの祈りの多くの動機となるべきです。 - 詩篇29:1,2

神の慈悲を求める祈りも適切です。聖書は、すべてのキリスト教徒が の祈りを通じて、罪の赦しを神に求めるよう促しています。(1ヨハネ1:7-9)パウロはこれを「恵みの御座に大胆に近づくこと」と表現し、そこで慈悲を得て、あらゆる必要の時に助ける恵みを見つけることを述べています。 - ヘブル人への手紙4:16

次に、当然ながら、主から特定の祝福や恵みを請う祈りがあります。現在、私たちは特にこれらの祈りに焦点を当てています。一部の人は、自分や他者の健康を祈ります。一部の人は富を祈ります。一部の人は旅の安全を祈ります。数百万人が平和を祈ります。戦争で対立する国の市民が、それぞれの軍隊の勝利を祈ることはよくあります。私たちは、祈りによって神に近づくすべての人々が真剣であり、当然ながら、その時に最も重要だと感じることを神に求めることを前提とします。しかし、聖書は、これらの祈りが、発せられた要求通りに答えられるべきだと私たちに正当化するのでしょうか？

神は、戦場で戦う子供の安全を願う親の祈りを聞き届けるかもしれません。また、国家の平和を願う

祈りが聞き届けられることもあるかもしれませんが。そのような祈りが聞き届けられる場合、それは単に神の意志にかなっていたからです。神には固定された計画があり、その計画に従って人類に配慮しています。その計画は、人間の気まぐれや 々な願望を満たすために作られたものではありません。また、祈りの量によっても、神の計画は変更されません。

「祈りは物事を変える」と言われますが、それは神の計画を変えるものではありません。神は、私たちや諸国から、私たちや世界全体のためにより良い条件をもたらすためにどのような変更を加えるべきか学ぶために、私たちや諸国を見ているわけではありません。人々の祈りの雄弁さや説得力によって、意見や計画が揺らぐような神に、私たちはどれほど信頼を置けるでしょうか！

## 「あなたの御心が行われますように」

神の民は、祈りの中で、すべての経験において神の御心が成されることを、心と魂の最も深いところにおいて願うべきです。この点において、イエスの例は際立っています。ゲツセマネの園で、主が逮捕と死に直面した時、「苦悩と絶望が彼を襲い、彼は弟子たちに言った、『私の心は悲しみのために砕けそうである。...彼は少し進んで、顔を地面に伏せて

祈り、言った。『父よ、もし可能なら、この杯を私から取り去ってください。しかし、私の願いではなく、あなたの御心が行われますように。』」 - マタイ26:38,39

イエスが人類の贖い主であり救い主として、屈辱と死を耐え忍ぶことは、神の御心であった。この神聖な計画の重要な特徴は、旧約聖書の聖なる預言者たちによって予言されていた。イエスは、何よりも父の御心が成し遂げられることを望んでいました。それが自分にとって何を意味するかは関係ありませんでした。彼は、逮捕されようとした時、このことを改めて確認しました。ペテロが主を守るために剣を抜くと、イエスは彼に言いました。「剣を鞘に納めよ。父が私に与えたこの杯を、私は飲まないでいられるだろうか。」 - ヨハネ18:10,11

イエスに従う者は、彼と共に苦しみ、死ぬ特権を持っています。パウロは「キリストと共に十字架につけられる」と語り、また「あなたがたには、キリストのゆえに、彼を信じるだけでなく、彼のゆえに苦しみを受けることも与えられている」と書きました（ガラテヤ人への手紙2:20；ピリピ人への手紙1:29）。私たちはイエスの足跡に従うように召されています。したがって、神が私たちをすべての苦難から免れさせようとはされていないことを知ってい

ます。したがって、イエスのように、私たちの主な関心事は、主の御心が私たちの肉体のうちに成し遂げられることです。主の御心は、一時的に地上の祝福を享受することかもしれません。しかし、私たちの祈りの重荷は、これらではなく、人生のあらゆる経験において主の御心が成し遂げられることにあるべきです。

イエスは弟子たちに、彼の中に留まり、彼の言葉が彼らの中に留まる限り、祈りの中で望むものを何でも求めることができ、それが与えられると述べました（ヨハネ15:7）。これは、私たちが思いつくあらゆることを神に求める特権があるという保証のように思えるかもしれませんが、そうではありません。

この主の言明に付随する条件に注意してください：「あなたがたが私の中に留まり、私の言葉があなたがたの中に留まるなら」。キリストの中に留まるということは、彼を頭とするその体の成員となることです。（コロサイ人への手紙1:18）これは、彼の考えが私たちの考えとなり、彼の計画が私たちの計画となることを意味します。もし私たちの意志が、キリストを通して神に完全に委ねられているなら、私たちは自分の意志を持たなくなるため、祈りは私たちが望むものを求めるものではなく、私たちの

頭であるキリストの意志と調和したものである。このように主の意志と調和して祈るなら、私たちは恵まれた答えを得られることを確信できる。

これは、イエスが弟子たちに語った別の言葉と調和しています。その中で、彼は天の父が「聖霊を求め求める者たちに与えることを喜ばれる」と教えています。（ルカ11:13）。神の霊に満たされるということは、神の考えが私たちの思考を支配し、私たちの生活がそれらの考えに合わせられるということです。そうすれば、私たちは神に祝福を請うことは、彼が与えると約束したものを除いては一切なく、したがって私たちの祈りが答えられるかどうか疑問に思うことは決してありません。

## 「あなたの御国が来ますように」

ルカ11:1には、弟子たちが「主よ、私たちに祈りを教えてください」と求めた記録があります。これに対し、イエスは現在「主の祈り」として知られる祈りを与えました。この模範的な祈りでは、私たちが祈るべき内容の指針が与えられています。

この祈りの簡潔な概要における重要な部分は、神への適切なアプローチの方法です：「天にいます私たちの父よ、御名が聖とされますように」（第2節

）。聖書では、アダムは「神の息子」と呼ばれています。(ルカ**3:23,38**)。しかし、彼が罪を犯した時、彼は神の子としての地位を失い、神から離反し、死の判決を受けました。アダムの子孫である全人類もまた、神から分離しているため、彼を「天にいます私たちの父」と呼ぶことはできません。これは、罪を悔い改め、イエスを個人的な救い主として受け入れ、神に生涯を捧げ、その御心を行うために完全に献身した者だけに与えられる特権です。このような者は、神の御子の霊を受けたとされ、 **thus** 神の子となったのです。 - ローマ人への手紙**8:15** ; ガラテヤ人への手紙**4:6**

神の子供として、彼らは何よりもまず父の名を尊ぶことを望むでしょう。 **thus, their attitude will always be, "Hallowed be thy name."**天の父の名を正しく尊ぶことは、私たちが 祈りによって彼に近づく際、イエスが聖書で示した方法でそうすることを意味します。彼は、私たちの祈りは彼の名前によって捧げられるべきだと説明しました。 - ヨハネ **15:16**

これには理由があります。私たちは、正当に裁かれた種族の一員として、イエスという私たちの弁護者を通じなければ、神の御座に立つ資格はありません。(1ヨハネ**2:1**) 彼の御名において、そして彼の流

された血の功績によって、私たちは「大胆に」恵みの御座に近づき、赦しと、愛する天の父が約束されたすべての祝福を求める特権を与えられています。

(ヘブル4:16) もし私たちが彼の御名を正しく聖別するなら、イエスを通さずに彼に近づくことは決してありません。

主の祈りの例に倣うとき、私たちの願いは、自分自身の利益のためというより、他者の祝福のためになるでしょう。このことは、冒頭の祈りにおいて示されています：「御国が来ますように。天におけるように、地においても御心が行われますように。」

(マタイ6:10 ; ルカ11:2)。この祈りの答えは、人々が世紀にわたって祈り続けてきた多くの祈りの答えとなるでしょう。その答えは、すべての人の正当な願望を満たすものです。それは、主の王国の義の律法に従うすべての人々に、平和、健康、そして永遠の命をもたらすでしょう。

人類が渴望し、数百万人が祈る祝福は、すべて神によって予見され、彼がすべての預言者を通じて約束した王国を通じて提供されるものです。これらの約束には、死んだ者たちの復活を含む、人々への祝福の詳細が数多く含まれています。神は人々の苦しみを見過ごしたわけでも、彼らの助けを求める叫びを無視したわけでもありません。彼の祈りへの答え

は、適切な時が来た時、彼らがかつて夢にも思わなかったものを遥かに超えるものとなるでしょう。

例えば、戦場で戦う子供の安全を祈る親の場合を考えてみましょう。親は子供を愛しており、家族の家に戻ってくることに以上大切なものはありません。しかし、子供が戻ってこなければ、親の最初の考えは「神は気にかけていない」「憐れみがない」かもしれません。もし親が、祈った時よりもはるかに満足のいく帰還を神が用意していることを信じていることができたなら、親の気持ちはどのように変わるでしょうか！

親は、子供が死の眠りにつくことで免れる苦難や苦痛について、どれほど知らないものでしょうか。畢竟、親も子供も滅びゆく種族の一員であり、戦場で死ぬことと、老衰で死ぬことの違いは、永遠の広がりとは比べれば、一瞬の差に過ぎません。この立場から、私たちは祈りの対象と、神が私たちの願いに答える方法を見なければならぬのです。

私たちが神に祈るという事実そのものが、彼の知恵と力と愛が私たちのものを遥かに超えているという信仰の表れです。しかし私たちはこのことを忘れ、神が私たちの祈りを聞き入れていないと感じます。なぜなら、神は私たちの限られた能力で望むように答えていないからです。私たちの命の期間は非常

に短く、私たちは、この短い人生の中で成熟するかどうかで成果を判断します。しかし、神の業をこの立場から判断すべきではありません。

聖書は神を「永遠から永遠まで」と述べています（詩篇41:13 ; 90:2）。神は、私たちの短い生涯の間に、ご自身の計画の特定の段階を完了する必要はありません。たとえそれが私たちの個人的な願いに関わることでです。もし今日、神の意志にかなう特別な祝福を神に祈り、その答えが明日や明後日になっても来なかったとしても、私たちは神への信仰を失うことはありません。答えが来た時に喜びます。神には「明日」もあります。彼の日は時間ではなく、時代で測られます。彼の「明日」の時代、すなわちキリストの王国における千年の期間に、世界が正当に渴望し、数百万人が神に願い求めたすべての祝福が、人類に豊かに注がれるでしょう。このことを認識して、人々は次のように応えるでしょう：「これが私たちの神です。私たちは彼を待ち望んでいました.....私たちは彼の救いに喜び、喜び踊るでしょう。」 - イザヤ25:9

## 「天におけるように」

私たちは既に、神は御意志に反する祈りには答えないことを学んでいます。主の祈りにおいて、この

原則は明確に示されています。神に地上の民への祝福を請う際、彼らは単に自分たちが渴望する「良いもの」を求めず、神の御意志に調和したものを求めています：「天においてなるごとく、地においても御旨が成りますように。」 - マタイ6:10

神は、御心と調和した事柄について、私たちにどれほど広い自由を与えられたことでしょうか。神の御心は天で成されています。そして、神は、その御心が地でも同じ程度に成されることを目的としています。もちろん、私たちは、神の御心が天でどのように成されているか全てを知りません。しかし、現在地上に存在する悪が、私たちが天と呼ぶ霊の世界の住人の生活を悩ませていることはないことは、合理的に確信できます。

戦争は、神の意志と調和しない大いなる悪の一つです。したがって、私たちは平和を祈るべきです。

(詩篇122:6 ; ナホム1:15)。実際、天において神の意志が成し遂げられるように祈ることは、平和を祈ることなしにはできません。私たちの平和の祈りは、神の平和を確立する計画と調和していなければなりません。それが彼の王国計画です。(エゼキエル37:21-28)。神は王国を設立し、政府を確立すると約束されました。その政府の王はイエスです。「その政府は彼の肩に負われる」とイザヤは書き、「

彼の政府と平和の増し加わりに終わりはない」とあります。 - イザヤ9:6,7

疑いなく、神は人類が戦争を廃止しようとする願いに同情の眼差しを向けています。国際的な緊張が高まり、戦争が不可避に思える時、両側の信心深い人々は平和を祈ることを迫られます。戦争を引き起こす可能性のある対立は解決されるかもしれないし、されないかもしれない。しかし、私たちは最終的に普遍的で永続的な平和が訪れることを知っている。それは諸国が平和の実現可能な公式を発見するからではなく、「平和の君」が地球の支配権を掌握するからである。(イザヤ9:6) その時、「あなたの王国が来ますように」という祈りが答えられるだろう。

キリストの支配は、聖書において「主の山」として象徴されています。ミカ4:1-4には、次のように記されています。「その日、人々は言うだろう。『主の山へ上ろう。ヤコブの神の家に。彼は 私たちにその道を教え、私たちはその道に従う。なぜなら、律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。』彼は多くの民を裁き、遠くの強い国々を戒める。彼らは剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す。国は国に対して剣を挙げず、戦いを学ぶこともない。彼らはそれぞれ、自分のぶどうの木の下といち

じくの木の下に座り、誰も彼らを恐れない。なぜなら、万軍の主がそう言われたからである。」

何という素晴らしい軍縮の計画でしょう！これは神の計画です。平和を祈り、諸国が軍縮することを祈る時、私たちは神が聞き、その御心に従って祈りに答えてくださるという確信を持って祈りましょう。その御心は、彼の王国を通して実現されるからです。「彼は戦争を止ませる」とダビデは預言しました。 - 詩篇46:9

この重要なテーマに関する第2回は、来月の『ザ・ドーン』誌に掲載されます。その中で、主の祈りの他の部分の詳細を考察します。また、聖書によると、すべての民を祝福し、世紀にわたって唱えられてきた数百万の心の祈りに答える神の地上における王国に関するさらなる側面についても探求します。

## 聖書研究

8月3日のレッスン

# 神の建物

**鍵となる聖句：「他のいかなる基礎も、イエス・キリストが据えられたもの以外に、人は据えることはできない。」**

**コリント人への第一の手紙3章11節**

**選択された聖句：**

**コリント人への第一の手紙3章9節～17節**

建物がどれだけ美しく、構造的に堅固であっても、適切な基礎の上に建てられていなければ、長くは持ちません。ひび割れがすぐに現れ、床や壁が歪み、屋根が垂れ下がり、部品が崩れ始め、かつては人間の技の結晶として威風堂々としていた建造物は、使用不能な廃墟となり、破壊されるべき醜い残骸と化します。堅固で動かない基礎、水平で四角く、多くの世代にわたってその上に築かれたものを支えるに十分な基礎は、いかに重要でしょうか。まさにそのような確固たる永遠の基礎が、私たちに与えられています。その上に、神と彼の約束への信仰の構造を

築くための基礎です。使徒パウロが私たちの鍵となる聖句で教えているように、その基礎はイエス・キリストです。

この図をさらに展開して、使徒は「あなたがたは神の建物です」と書き、主の聖別された子供たち一人一人が、キリストという堅固な土台の上に、神に喜ばれる人格の構造を築いていることを強調しました。 - 1コリント人への手紙3章9節

この比喻の意味は、使徒パウロが「もしだれかがキリストにあるなら、その人は新しい被造物である」と書いたように、別の言葉で説明されています。

(コリント人への第二の手紙5:17) 私たちはどのようにしてキリストに入るのでしょうか？まず、彼について知り、彼が神の救いの計画における根本的な役割を理解しなければなりません。私たちは、天の父の愛の表現であり、自身の愛の表現として、イエスがアダムと彼を通じて裁かれた人類の失われた命の贖いとして、自らの命を捧げたことを認識しなければなりません。(ローマ人への手紙5章18節、19節；第一テモテ2章5節、6節) これは、イエスを私たちの贖い主として認識し、私たちの救いの基盤が築かれたことを意味します。

キリストが私たちために成し遂げられたことを真に理解し、心から信じることは、私たちの生活の

direction に大きな変化をもたらします。使徒は次のように説明しています：「キリストの愛が私たちを駆り立てるのです。なぜなら、私たちは次のように判断するからです。もし一人の方がすべての人々のために死んだのなら、すべての人々は死んだも同然です。そして、彼がすべての人々のために死んだのは、生きている人々がもはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活された方のために生きるためです。」 - 2コリント人への手紙5章14節、15節

私たちの授業の文脈において、パウロはこの働きを、キリストの土台の上に「金、銀、宝石」で築くことに例えています。これは、彼の言葉の貴重な真理と約束を表しています。（1コリント人への手紙 3:12）「私たちは彼の作品であり、キリスト・イエスにおいて良い行いをするために創造され、...それらを行うために歩むためです。」 - エペソ人への手紙2:10

キリスト教の成長における不可欠な要素の一つは、神の目に見えないものへの信仰です。パウロが手紙を書いたコリントの教会は、この点で困難を抱えていました。彼は彼らが「肉的な者」——つまり、地上的で人間的な視点を持っていると述べました。

その結果、彼らは目に見える人間的な指導者に過度の重視を置いていました。 - 1コリント3:1-4

ここには、与えられた土台の上にどのように築くかが重要であることが示されています。使徒は、一部の人々が「木、藁、藁の束」で人間の基準に従って築いていると暗示しています。これは肉の霊を表し、神の裁きに耐えられないものです。（12-15節）

パウロは、キリスト教徒の築き上げる仕事は、キリストと神の目に見えない指導を認識する土台の上に築かれる必要があることを知っていました。「では、パウロとは誰か。アポロとは誰か。あなたがたが信じた者たちの奉仕者ではないか。...私は植えた。アポロは水を注いだ。しかし、成長させたのは神である。」 - 1コリント人への手紙3章5節、6節

## 聖霊の宮殿

**鍵となる節：「あなたがたは知らないのか。あなたがたの体は、あなたがたのうちにて、あなたがたから与えられた聖霊の神殿である。あなたがたは自分のものではない。」**  
**コリント人への第一の手紙6:19**

**選んだ聖句：**  
**コリント人への第一の手紙6章12節～20節**

本日の授業で引用された聖句は、使徒パウロがコリントの教会に存在していた不道徳について述べたものです。「あなたがたの誇りは良いものではありません」と彼は書きました。（コリント人への第一の手紙5:6）彼らは、そのような状態を容認する原因となっている偽りの兄弟愛に誇りを持っていたようです。

パウロが注意を促した一人の罪人について、彼は教会がその人を交わりから追放すべきだと命じました。パウロはこの行為を、彼らの間から「酵母」を排除する行為として表現しました。（2-7節）聖書

において酵母は、何らかの形で罪の象徴として用いられています。

主の民の集いの中に不道徳が存在することは、おそらく奇妙に思えるかもしれませんが、コリントの（異邦人）の一部がキリストを受け入れ、その民に結びついた人々の過去の習慣を考慮すれば、そうでもありません。コリントの一般市民は異教の神々を崇拝していました。その中でも、ギリシャとローマの愛の女神、アフロディテとビーナスが特に崇拝されていました。彼らの以前の崇拝に不道徳が組み込まれていたため、コリントの教会の一部の人々は、当初、それに対して同じ程度の軽蔑を抱かなかったかもしれません。しかし、そのような寛容さは神の意志に完全に反するものであったため、パウロは混乱を是正するために断固とした措置を講じました。

しかし、この不正に対する反対の立場は、パウロが愛から取ったものでした。彼はこのことをコリントの教会への第二の手紙で明らかにしています（コリント人への第二の手紙2章1節から11節）。パウロはこれらの兄弟たちを訪ねる計画を立てており、その機会の喜びを損なうものを何一つ望んでいませんでした。彼は、自分が促したように不正を働いた者に対して行動を起こした教会を称賛しました。また、その個人が教訓を学んだことも考慮しました。彼

を悲しませることを避けるため、パウロは教会に、彼を赦し、交わりに回復させるよう提案しました。教会がこの措置を取れば、パウロは彼らと共に喜びを分かち合うと説明しました。このように、パウロは不正を正すことを望んだだけでなく、不正を犯した者が赦され、回復されることも望んでいたことがわかります。

私たちの鍵となる聖句は、体が「聖霊の宮」であり、私たちの中に存在すると述べています。神殿は、ユダヤ人と異邦人双方に広く知られていた。イスラエルでは、神殿は象徴的に神と民の出会いの場とされていた。イスラエルの敬虔な者たちは、それを聖なる場所として崇め、忠実な者たちはその状態を維持するよう努めた。しかし、悪しき王の支配下で、神殿は壁の中に偶像崇拜が設けられ、汚された。

新約聖書では、神殿の象徴が二つの意味で用いられています。一つ目は今日の聖句で、パウロが各信者の肉体を「神殿」と呼び、聖霊によって神が住む場所として、清く汚れないように保つべきものとして説明しています。二つ目の神殿の比喻は、使徒ペテロによって提示されています。彼は次のように書きました。「あなたがたもまた、生きた石として、霊的な家として築き上げられている。」(1ペテロ2:5)。ここでは、各献身的な信者は、神の国における霊

的な「家」または「神殿」の一部となるために準備されている「石」として語られています。 - ヘブル人への手紙**3:6** ; エペソ人への手紙**2:19-22** ; マタイ**6:10**

## もはや他者ではない

**鍵となる聖句：**「今や、あなたがたはもはや異邦人でも外国人でもなく、聖徒たちと共に市民となり、神の家族の一員となった。」

**エペソ人への手紙2:19**

**選んだ聖句：**

**エペソ人への手紙2章11節～19節**

イエスの贖いの血によって与えられた贖いを心から受け入れる者たちにもたらされる美しい結果の一つは、そのような者が無条件の献身によって自分自身を捧げる時、神との特別な契約関係に入ることです。この契約は、そのような者たちにとって新しい地位を意味し、彼らはもはや神から離反した者ではなく、神の息子として認められるのです。(ローマ人への手紙8:14-16; ヨハネの手紙第一3:1,2)これと調和して、パウロは別の場所で次のように言っています：「もし誰かがキリストにあるなら、その人は新しい被造物です。古いものは過ぎ去り、見よ、すべてが新しくなった。」 - コリント人への第二の手紙5:17

エペソ人への手紙**2:8-10**で、使徒は、この新しい子としての地位は、信仰によってのみ、神の恵みによって得られると述べています。 私たちには、それを達成するための行いはありません。彼は「私たちは彼の作品です」と言っています。しかし、この状態に達すると、私たちはキリスト・イエスを通して、神に受け入れられる行いをなす能力を得ます。これは一見矛盾しています。一方では、この新しい関係を得るために何の行いもできなかったのに、神との子としての契約に入った後、私たちは確かに、神に受け入れられる行いをなすことができ、またなすべきです。使徒ヤコブは言います。「信仰に業が伴わなければ、その信仰は死んだものです。」 - ヤコブの手紙**2:17**

神の子供としての私たちの業は、最も重要な点で、キリストという私たちの頭において根ざした性格の果実の発展と外的な現れです。（ヨハネ**15:8**；ガラテヤ**5:22,23**）受け入れられる業には、主、その真理、そしてキリストにある兄弟姉妹のために捧げる犠牲と奉仕も含まれます。 - ローマ人への手紙**12:1**；エペソ人への手紙**4:14,15**；ガラテヤ人への手紙**5:13**

私たちのレッスンで、パウロは異邦人の信者たちが「イスラエルの共同体から離れており、約束の契

約から遠く離れた者たちで、希望もなく、神のない者たち」であったと述べています。（エペソ人への手紙2:12）。しかし、キリストの血が、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、聞く耳と信仰の心を持つすべての人に対して効力を発揮する時が来しました。それぞれは、与えられた手段であるキリスト・イエスを通じて、新しい地位を主張する機会を得たのです。

ユダヤ人にとって、何世紀にもわたって「戒めの律法」の下で生きてきた者たちにとって、これはその体制から離れ、キリストへと移ることを意味しました（15節）。これらの以前の戒めを守り、それに付随する地上の約束を享受できるのは、完全な人間だけであることが完全に証明されていたからです。罪のないイエスだけが、このことを成し遂げることができました。しかし、彼はこれらの地上の特権を犠牲にすることで、ユダヤ人と異邦人を含む人類が罪と死の奴隷状態から逃れる道を提供しました。

**thus, through Jesus, “we both [ユダヤ人と異邦人] have access by one Spirit to the Father.” – 18節**

私たちのキー・ヴェルスで、パウロは、このような新しい関係に入った者たちは、以前の地位に関わらず、今や「神の家族」という一つのグループに属し

っていると述べています。この象徴的な「家」の基礎は「使徒と預言者たち」であり、イエス・キリストご自身が「最高のかど石」です。(20節) 建物の工事が完了し、すべてのメンバー——すべての石——が形作られ、適切な場所に配置されると、それは単なる建物ではなく、「聖なる神殿」、神の「住まいの場所」となる。(21節、22節) この神殿は、象徴的な新エルサレムに所在し、メシヤの王国において、地のすべての家族に祝福が流れ出る源となる。

- 啓示録21:1-7,22-24

## 賛美の犠牲

**鍵となる節：**「それゆえ、私たちは彼によって、  
神に賛美の犠牲を絶えず献げよう。すなわち、私  
たちの唇の果実として、その名に感謝をささげる  
のである。」

ヘブル人への手紙13:15

**選択された聖句：**

ヘブル人への手紙13章12節～21節

今日のレッスンでは、使徒パウロはイエスの犠牲と奉仕、そしてその足跡をたどる教会（信徒）の犠牲と奉仕について語っています。その際、パウロは出エジプト記とレビ記に詳細に記されたイスラエルの幕屋における奉仕と献げ物に言及しています。パウロは次のように述べています：「私たちは祭壇を持っています。その祭壇の奉仕者たちは、その祭壇の食物を食べる権利はありません。大祭司が罪のために聖所へ血を携えて入る獣の体は、陣営の外で焼かれる。イエスもまた、ご自身の血で民を聖別するため、門の外で苦難を受けられた。だから、私たちは

陣営の外へ出て、彼の恥を負いながら、彼のもとへ行きましょう。」 - ヘブル人への手紙**13:10-13**

パウロは、私たちの鍵となる節で記録されているように、イエスの弟子たちに、神に「賛美のいけにえ」を絶えず捧げるよう励ましています。彼はこのいけにえを「私たちの唇の果実として、その名に感謝を捧げるもの」と説明し、さらに「善を行ない、分かち合うことを忘れるな。なぜなら、そのようないけにえは神に喜ばれるからである」と付け加えています。 - **15,16節**

この使徒の言葉は、幕屋にある金の香炉の炭に振りかけられた香が、甘い香りを放って至聖所まで届き、神の臨在を表すことを思い出させます。（出エジプト記**30:1-8**）確かに、賛美の犠牲、私たちの唇で神に感謝し、善を行い、互いに交わること、これらは香りのように、私たちの天の父への甘い香りです。別の箇所では、パウロはこのような捧げ物を「甘い香りの香り、神に受け入れられ、喜ばれる犠牲」と述べています。 - フィリピ人への手紙**4:18**

私たちの主題の別の側面について、使徒は次のように書きました。「なぜなら、彼が[イエス]死んだ時、彼は罪に対して一度死んだからです。...同様に、あなたがたもまた、罪に対して本当に死んだ者とみなせ。」（ローマ人への手紙**6:10,11**） 私たちは、

パウロが私たちに、私たちの罪への死が、肉においてまだ不完全であるため、計算上の事柄であることを思い出させてくれることを喜んでいますが、イエスの血が私たちのために帰せられたため、私たちは、私たちの犠牲と奉仕を「神に受け入れられる聖なるもの」と計算する神聖な権威を持っています。 - ローマ人への手紙**12:1**

これは、私たちに与えられた素晴らしい特権であり、高い栄誉です。そして、キリストの血が私たちの犠牲を神に受け入れられるものとするという信仰を持つからこそ、私たちはこの祝福された役割の現実を理解することができるのです。私たちはパウロのように信じることができます。「私たちは自分自身から何かを思うに足るものではありません。しかし、私たちの十分さは神から来るのです。」(コリント人への第二の手紙**3:5**) 私たちは、私たちのアダムの欠点がキリストの義の衣で覆われているという確信を受け入れることができます。そして、私たちはキリストの唯一の体のメンバーとして、神に受け入れられるのです。 - イザヤ**61:10**; ピリピ人への手紙**3:9**; コリント人への第一の手紙**12:12,27**

したがって、私たちは毎日、神、その真理と正義の御業、そしてキリストにある兄弟姉妹に対して、奉仕と犠牲に励むべきです。また、この世の貧しく苦

悩める被造物に「神の国の福音」を宣べ伝えることにも励むべきです。（マタイ**24:14**）「このような犠牲によって、神は喜ばれるからです。」このように、私たちの「賛美の犠牲」は、愛する天の父と、その子であるキリスト・イエス、私たちの主に栄光と誉れをもたらすでしょう。

## 生ける石

**鍵となる聖句：「あなたがたもまた、[生きた]石として、霊的な家として築き上げられ、聖なる祭司の群れとなり、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的な犠牲を献げるためです。」**

**1ペテロ2:5**

**選んだ聖句：**

**1ペテロ2:1-12**

「神の民」とみなされることは、人類の歴史を通じて異なる意味を持ち、異なる結果をもたらしてきました。例えば、旧約聖書の記述では、数世紀にわたり神の民を構成したイスラエルの民族について学びます。彼らは信仰と不信仰の時期を繰り返し経験しました。（出エジプト記6:7）神が地上に築かれる王国において、贖われた全人類は、神の民となる機会を与えられるでしょう。 - 黙示録21:3-7

今日の授業では、使徒ペテロはペンテコステ以降、現在の時代に生きる神の民——「最初の復活」における天の報いを希望して地上の野心を犠牲にしている人々——に語りかけています。（黙示録20:6）ペテロは、これらが「霊的な家」として築かれていると説明しています。彼らは「神の予知に従って選ばれた者たち」です。 - 1ペテロ2:5; 1:2

現在の時代における神の民は、ペテロがさらに指摘するように、「あなたがたは、暗闇から神の驚くべき光へと召された方の栄光を現すように」という責任を負っています。（1ペテロ2:9）私たちはかつて暗闇の中にあり、神から離れていましたが、神の民として召されました。その結果、私たちの大きな特権の一つは、福音の喜びの知らせを宣べ伝えることで「神の栄光を現す」ことです。イエスはこう命じられました。「あなたがたの光を人々の前で輝かせ、彼らがあなたがたの善い行いを見て、天にいますあなたがたの父を栄光に帰すように。」 - マタイ24:14; 5:16

「聖なる祭司の群れ」として、神の民は奉仕の目的で世界から分離されています。この祭司の群れに属することは、主イエス・キリストに帰依し、肉の墮落した傾向を捨て去り、その後、犠牲を捧げるこ

とで実現します。(1ペテロ2:1,5) 私たちはこの世にいますが、「この世のものではない」とイエスは言われました。(ヨハネ17:14) 死に至るまで忠実な者は、栄光に包まれた教会がイエスを頭として、人類の世界に義を教える指導者となる「王の祭司団」の一員となります。 - 1ペテロ2:9

私たちのキー・ヴェルスで指摘されたように、イエスに来ることで、私たちは「霊的な家」として築き上げられる生ける石として準備されています。ペテロは、私たちがこの霊的な家を築くと言っているのではありません。私たちが「築き上げられる」と言っているのです。各石は、神の設計に従って形作られ、削られ、磨かれて、完璧にその場所にフィットするようにされます。イエスをすべての贖いの代価として固い土台の上に築かれているこの霊的な家の部分として、私たちは神の目に尊い者となります。

さらに、現在の神の民は「特別な民」と呼ばれています。(1ペテロ2:9 ; テトス2:14) この「特別な」という言葉は、「神の所有物としての民」または「目的のための民」を意味し、神が彼らに特別な使命を授けていることを示しています。

これらは「キリストの尊い血」によって贖われたのです。(1ペテロ1:18,19) 彼らは主に対して完全に奉獻し、自分を捧げ、キリストを通して受け入れられるようになった者として、命を犠牲として捧げたのです。(ローマ人への手紙12:1) 彼らの生涯は完全に神に獻げられています。彼らは「以前は恵みを得られなかったが、今や恵みを得た神の民」であり、神は彼らを特別な宝物としてお考えになっています。 - 1ペテロ2:10

## 火で試された金

**「私はあなたがたに、火で試された金を買えと勧める。そうすれば、あなたがたは富むようになる。」**

**黙示録3:18**

イエスの死と復活以来、ほぼ二千年にわたり、私たちの天の父は、キリストの栄光ある王国における将来の支配下で、罪に病み死にゆく人類の家族を祝福する特権を共有する特別なクラスのキリスト者に招きを伸ばしてきました。この授業の冒頭の聖句で、復活された主は、この特別なクラスの忠実な従者について、非常に特別な方法で語っています。彼らは「火で試された金」として価値ある性格を育む者たちです。

ヨハネの黙示録の記述を通じて、主イエスの弟子たちがこの世から召された後、清められ、精錬され、彼の性格の模範に似せられる必要があることが明確に示されています。この使命を果たすために、彼は彼らに忠実であるために必要な重要な霊的な賜物を与えるでしょう。冒頭の節は、これらの人々に対

し、「白い衣を着け、あなたがたが着せられ、あなたがたの裸の恥が 現れないように。また、目を目薬で塗れ、あなたがたが見ることができるように」と続けます。

## 非常に価値ある

今日、金は存在する金属の中で最も価値のある3つのうちの1つであり、聖書時代には最も価値のある金属でした。通常、少量で発見されるため、非常に希少です。金は聖書で最初に言及される金属であり、ピソンという名前と関連しています。ピソンは「増加」を意味し、エデンの園から流れ出た川を四つに分ける四つの支流の一つです。川は人類の家族を象徴し、その中から特別な階級が選ばれることを表しています。ピソンはエデンの川の最初の支流として言及されています。聖書の記録には次のように記されています。「エデンの地から川が流れ出し、園を灌ぎ、四つの支流に分かれた。最初の支流はピソンと呼ばれ、ハヴィラの地を囲み、その地には金があった。その地の金は特に純粋で、香ばしい樹脂とオニキス石も見つかった。」 - 創世記2:10-12

金は、その希少性だけでなく、耐久性と美しさのためにも高く評価されています。古代には、アブラハムの名前が変更される前から、富と地位の尺度と

して認識されていきました。「アブラムは、家畜、銀、金において非常に豊かでした。」(創世記13:2)。時代を超えて、今日に至るまで、金は高く求められ、蓄積されてきました。しかし、聖書は、この蓄積された富が無価値となり、現在の世界とその悪の制度が滅びる時が来ると予言しています。ヤコブは書きました。「今、富む者たちよ、あなたがたに臨む悲惨な運命のために泣き叫べ。あなたの富は腐り、あなたの服は虫に食われています。あなたの金と銀は錆びています。その錆はあなたに対して証言し、火のようにあなたの肉を食らうでしょう。あなたは最後の日に富を蓄えたのです。」 - ヤコブ5:1-3

色、輝き、酸化や変色に耐える性質から、金は特に宝飾品や装飾品の製造に有用です。「あなたの頬は宝石の列で美しく、あなたの首は金の鎖で飾られている。」(ソロモンの歌 1:10)。金は他の金属よりも安定しており変化しないため、国や人々之间的取引や交換の基準として使用されてきました。

## 神の性質

その希少性と高い価値のため、金は聖書において、キリストの花嫁が人生の最も高い次元である神性において受け継ぐ霊的な相続を象徴するために用い

られています。(2 ペテロ 1:4)。今回の聖句は、黙示録の7つの教会に対する最後の(使徒)たちへの主のメッセージから引用したものです。この感動的な約束は、「克服した者には、わたしと一緒に、わたしの王座に座ることを許そう。わたしも、自分の父とともに、その王座に座ったのと同じである」というものでした。(黙示録3:21)。忠実なキリスト者は、「キリスト」の成員として神の性質を共有し、未来の天の王国でメシヤの王座に座る姿が示されています。イエスは約束しました。「私はあなたがたに王国を授ける。父が私に授けたように。」 - ルカ22:29

## キリストの花嫁

旧約聖書における未来の出来事の前表として、イサクの花嫁リベカは、キリストの花嫁である彼の忠実な弟子たちを表しています。(創世記24章参照) このことを示すため、彼女は天の父が愛する御子、私たちの主イエスのために花嫁を求める素晴らしい約束を象徴する金の贈り物を与えられました。リベカは、将来の夫であるイサク(私たちの主イエスを象徴する)と出会うための困難な旅に出る決意を示し、父の家を自発的に離れました。「らくだが水を飲み終えた時、その男(イサクの僕)は、半シェケル重の金の耳輪一つと、彼女の腕(リベカ)のための

十シケル重の金の腕輪二つを取った。」 - 創世記  
24:22

詩篇には、キリストの花嫁が金で飾られる未来の結婚式の描写があります。金は、彼女が神聖な生命の次元への霊的な報いを象徴しています。この最も素晴らしい相続について、詩人は次のように記しています。「王の娘たちはあなたの尊い女性たちの中にいた。あなたの右手に立っていた女王は、オフィル産の金で飾られていた。」(詩篇45:9) 女王は、結婚しようとしている主への忠誠心と、真実と正義の原則で満たされた性格のため、他の尊い女性たちから区別されていきました。同じ詩篇には次のように記されています。「あなたの御座は、神よ、永遠に続くでしょう。正義の杖があなたの王国の杖となるでしょう。あなたは正義を愛し、悪を憎む。それゆえ、あなたの神である神は、あなたを喜びの油で油注ぎ、あなたの伴侶たちよりも高く上げられた。」 - 6,7節

オフィルへの言及は、最高品質の金の産出地として知られる場所を指します。したがって、詩人は続けて言います。「王の娘は内面も輝かしい。彼女の服は鍛造された金でできている。彼女は刺繍の服を着て王のもとに連れて行かれる。」 - 詩篇  
45:13,14

## 天の都

キリストの未来の花嫁について語る際、私たちの主イエスは宣言されました。「あなたがたは、この世界の光です。山の上に建てられた町は隠れることができません。」（マタイ5:14）。キリストの花嫁である忠実な信徒たちへの最後のメッセージで、私たちは天の都の姿を垣間見ます。「私、ヨハネは、神から天から下ってくる聖なる都、新しいエルサレムを見た。花嫁が夫のために飾られたように、準備された都であった。」（黙示録21:2）。同じ章の後半で、ヨハネは象徴的な言葉で栄光に包まれたキリストの姿を記述しています。「彼は私を霊で高い山に連れて行き、神から天から降りてくるあの大いなる聖なるエルサレムを見せた。その光は神の栄光であり、その光は最も貴重な石、ジャスパーの石のように、水晶のように澄み切っていた。」 - 10節、11節

金が高貴なキリストの花嫁と結びつけられたように、天の都もまた神聖な制度として見なされました。「その壁の建造物はジャスパーでできており、都は純金で、透明なガラスのようでした。都の壁の基礎は、あらゆる種類の宝石で飾られていました。...十二の門は十二の真珠で、各門は一つの真珠でできていました。都市の大通りは純金で、透明な

ガラスのように清らかでした。」（18-21節）。このように、神の都市は、諸国を支配する準備を整えた栄光に満ちたキリストを象徴しています。天の都は、キリストの栄光に満ちた未来の王国のもとで、地のすべての家族の祝福の中心となるでしょう。 - 創世記22:18 ; 使徒行伝3:25

## 古い秩序の終焉

私たちは現在、この「現在の悪の世界」の終末の時代に生きており、主の約束された再臨の定められた時を迎えています。（ガラテヤ人への手紙1:4）これは、キリスト・イエスにおける天の召命に応えた者たちにとって、試練と試練の特別な時でした。マラキの預言の言葉から、次のように読めます：「彼の来る日、誰が耐えられようか。彼が現れる時、誰が立ち得ようか。彼は精錬者の火のようで、衣服を白くする強い石鹼のようだ。彼は銀を精錬し清める者のように座し、レビの子らを清め、金や銀のように精錬し、主への義の供え物を献げるようにする。」 - マラキ3:2,3

私たちは、自己中心と高慢を基盤に築かれた世界の古い社会秩序が、キリストの来臨の王国に備えて消え去りつつあることを知ります。この諸国の混乱の証拠として、ルカはイエスの言葉を記録していま

す。「太陽と月と星に兆候が現れ、地上では諸国が混乱し、海と波が轟き、人々の心は恐怖で絶望し、地上に起こることを待ち望むからです。天の力が揺れ動くからです。そして、彼らは 人の子であるイエスが、力と大きな栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るでしょう。」 - ルカ21:25-27

今日、私たちの周囲には、預言された「諸国の苦難と混乱」が至る所に現れ、解決の道や逃れる手段が見当たらない。自己中心主義、憎しみ、高慢、そして攻撃の精神が、残酷で強力な独裁体制を生み出した。罪、腐敗、不正は、確かに恐ろしい結果をもたらした。人間は今や、自分自身を何度も破壊する武器を手にあります。しかし、神の素晴らしい約束により、人類が自分自身を破壊することは許されないことが保証されています。聖書は、神の力と介入によって制止されない限り、人間の自己中心性が最終的に自己破壊に導かれると教えています。イエスは、この恐ろしい時代と世界が向かっている大いなる苦難について語りました。彼は言いました。「もしあの日が短縮されなかったなら、肉なる者は一人も救われなかっただろう。しかし、選ばれた者のために、あの日は短縮される。」（マタイ24:22）。キリストとその教会は、王国権威と栄光をもって適切な時に介入し、人類を神に戻す祝福と回復の業を開始します。

## 嘆き悲しむ創造物

貧しい嘆き悲しむ人類の創造物は、自らの自己中心的で高慢な狂気から救い出されます。すべての国家と国際問題は、キリストの王国の支配下で解決されます。私たちは、すべての不義が地上から取り除かれると約束されています。「そして神は彼らの目からすべての涙を拭い去られる。もはや死もなく、悲しみも、泣き叫びも、痛みもありません。なぜなら、以前のものはすべて過ぎ去ったからです。そして、玉座に座っていた方が言われた。『見よ、私はすべてのものを新しくする。』そして、私に言われた。『書き記せ。これらの言葉は真実で、確かなものである。』」 - 黙示録21:4,5

私たちが今生きている時代は、イエスの忠実な弟子たちが天の召命に応じてきた約二千年の集大成です。したがって、私たちは「羊の婚礼」の時代が近づいているのです。私たちは次のように読みます。「喜び、喜び、彼に栄光を帰せ。なぜなら、小羊の結婚が来たからである。そして、その妻は自分を整えた。彼女には、清く白い細布で着飾ることを許された。その細布は聖徒の義である。そして彼は私に言った、『...これらは神の真実の言葉である』」 - 啓示録19:7-9

## 信仰の試練

この時代の終末期は、主の民にとって特別な試練の時期であり、キリストのそれぞれのメンバーの信仰が精錬され、清められ、証明されています。ヨハネは、この時代について次のように預言的な言葉を記録しています： 「彼の怒りの大日が来た。誰が立つことができようか？」（黙示録6:17）。私たちは今、地上におけるすべての現在の制度の崩壊が急速に迫っているのを目撃しています。

イエスは言われました。「同じように、これらのことが起こるのを見たら、神の国が近いことを知れ。本当に、あなたがたに言うておく。これらのことがすべて起こるまで、この世代は決して滅びない。天と地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。気を付けなさい。あなたがたの心が、宴楽、酩酊、そして人生の心配事で重くならぬように。そうしないと、その日が突然、罨のようにあなたがたに襲いかかるだろう。それは、全地の面に住むすべての人々に臨むからです。常に警戒し、祈りなさい。そうすれば、起こりつつあるすべてのことから逃れ、人の子の前に立つことができるように。」 - ルカ 21:31-36

## 信仰と行い

天の召命を受けてキリストと共に相続人となる者は、必ず試練を受けるものです。それぞれが神の聖なる御言葉の信仰に堅く立ち続ける必要があります。「警戒し、信仰に堅く立ち、勇気を持ち、強くなれ。」(コリント人への第一の手紙16:13) もし私たちの中に適切な信仰が育まれないなら、それは必ず実を結ぶことで現れるでしょう。信仰が生き生きとしたものになっていない者は、まだ信仰を成長させていないのです。 **thus does the Apostle James ask,** 「兄弟姉妹たちよ、あなたがたが『信仰がある』と言っても、行いが伴わなければ、何の役にも立たないではないか？ そのような信仰が誰かを救うことができるのでしょうか？ ... だから、信仰だけでは十分ではないのです。良い行いを生み出さない信仰は、死んでいて無用のものです。ある人が言うかもしれませんが、『あなたは信仰がある。私は行いがある』。では、あなたの信仰を行いのないまま見せてみよ。私は私の行いによって私の信仰を示す。」 - ヤコブの手紙2:14,17,18

私たちの信仰、そして私たち一人一人の存在は、今まさに試されています。そのため、主は私たちに「死に至るまで忠実であれ」と促されています。（

黙示録2:10) キリストの花嫁となるべき者の一人一人の死に至るまでの忠実さは、彼と共に栄光を相続し、地のすべての家族と共に祝福を分かち合うという素晴らしい約束を意味します。これは私たちが受けられる最も偉大な贈り物であり、努力して得ようとし、準備すべきものです。私たちの主は私たちの忠実さを求めておられます。彼は私たちから、自己の意志や肉の業を含む、不純物のすべてを清めようとしておられます。 - ガラテヤ人への手紙5:19-21 ; コリント人への第一の手紙5:7,8 ; テモテへの第二の手紙2:21

作品は重要ですが、常にキリスト者の信仰の正しい基盤の反映でなければなりません。信仰と完全に調和していない人生は、その信仰を汚し、そのような信仰は死んだものです。ヤコブは書きました。「あなたがたは、私たちの先祖アブラハムが、息子イサクを祭壇に捧げた行為によって、神に義と認められたことを覚えていないのか。ご覧なさい、彼の信仰と行為は共に働いた。彼の行為は彼の信仰を完成させた。そして、聖書に書かれている通りになったのです： アブラハムは神を信じ、その信仰ゆえに神は彼を義と認められました。彼は神の子とさえ呼ばれました。だから、私たちは行いによって神に義と認められるのであり、信仰だけではないのです。ラハブという娼婦もまた例です。彼女は使者たち

を隠して別の道から安全に逃がした行いによって、神に義と認められました。「息のない体は死んでいるのと同じように、行いのない信仰も死んでいる。」 - ヤコブ2:21-26

もしアブラハムや他の信仰の英雄たちが、互いに信仰について議論するだけであったなら、彼らは信仰の英雄とはならず、信仰によって良い評価を得ることもなかったでしょう。聖書は、彼らが信仰に従って歩み、その行いが信仰と調和していたことを示しています。 **thus was their faith made complete by their works.** 私たちの信仰もまた、愛によって私たちの中で生き、働き、活動していなければなりません。 - ガラテヤ人への手紙5:6; エペソ人への手紙6:23

## 愛の印

愛という属性の発達も強調されなければなりません。しかし、それは天の召しを受けた者たちの生活において、他の重要な要素に取って代わるものではありません。例えば、愛は教義に取って代わることはできませんが、教義を正しく用いるための指針となります。愛は、主の名による信仰や活動に取って代わることはできませんが、神に受け入れられる信仰と奉仕の唯一の動機です。

私たちは、一つの霊、一つの心で堅く立ち、同じ貴重な信仰を持つ者たちと協力しながら、「純粹な心で熱心に」互いに愛し合うべきです（1 ペテロ 1:22）。私たちは、「愛と善行」を互いに励まし合い、誤解や争いを招くような言葉や行為を避けなければなりません（ヘブル 10:24）。信仰と愛は密接に関連しています。信仰に堅く立ち、愛によって生かされているなら、私たちは「神の力によって守られている」のです。 - 1 ペテロ 1:5

多くの人の愛は「冷えていく」かもしれませんが、私たちが信仰に堅く立つ限り、他者への愛は、たとえ一部の人から拒絶されても、熱く保たれなければなりません。（マタイ24:12）もし虐待や侮辱を受けたとしても、私たちは決して同じように侮辱してはなりません。迫害を受けた時、私たちは決して迫害者の列に加わってはなりません。（1ペテロ 2:21-23）私たちは強い信仰と、聖なる愛の霊の増し加わる必要がある。これが私たちの真摯な願いと熱心な祈りであるべきだ。神の尊い言葉は私たちの信仰の堅固な 基盤であり、私たちの信仰は愛によって働くものでなければならない。 - ガラテヤ5:6

## 忍耐強い信仰

私たちは、愛する主が私たちを精錬し、清め、清める間、試練に耐え、堅く立ち続ける必要があります。そうすれば、私たちは彼に受け入れられる犠牲を捧げることができます。これは、毎日十字架を負い、彼に従うことを意味します。(ルカ9:23) さらに、それは「祝福された希望を待ち望み、偉大な神であり私たちの救い主イエス・キリストの栄光ある現れを待ち望むこと」を必要とします。彼は私たちをすべての不義から贖い、ご自身に属する特別な民として清めるために、ご自身を献げられたからです。(テトス2:13,14) 愛する精錬者は、私たちに恵み深く働きかけておられます。私たちはこの働きに喜んで従わなければなりません。私たちは皆、精錬と清めを必要としています。なぜなら、私たちの霊的な宝が宿るこの地上の肉なる器には、不純物が内在しているからです。これは、火で試される金と同じです。 - 2コリント4:7

詩人はこう述べています。「主よ、私の声を聞いてください。私の慈悲の叫びに耳を傾けてください。もしあなたが、主よ、罪を記録されるなら、主よ、誰が立つことができますでしょうか。しかし、あなたには赦しがあります。そのため、私たちは恐れをも

ってあなたに仕えることができます。私は主を待ち望みます。私の全が待ち望み、その言葉に希望を置きます。」 - 詩篇130:2-5

私たちの巡礼の旅において、キリストの義の衣に覆われていなければ、天の父の前で立つことは決してできません。「私は主において大いに喜び、私の魂は私の神において喜びます。なぜなら、彼は私を救いの衣で着せ、義の衣で覆われたからです。花婿が装飾品で身を飾るように、花嫁が宝石で身を飾るように。」 - イザヤ61:10

ローマの信徒への手紙で、使徒パウロは「善を行ない続ける忍耐によって、栄光と誉れと不滅を求めらる者たち」に書き送りました。（ローマ人への手紙2:7）ガラテヤの教会に対しては、「善を行なうことに疲れてはならない。なぜなら、もし諦めなければ、時が来れば収穫を得るからである」と述べました。（ガラテヤ人への手紙6:9）私たちの主は、私たちを決して見捨てず、離れない。彼は愛をもって、私たちが彼の似姿に似せられ、彼の姿を反映するように望んでおられる。（ヘブル人への手紙13:5）私たちは、彼の精錬と清めのもとで、勇敢に耐え忍ぶべきである。

前述の節で指摘されたように、私たちは「善を行うことに倦む」ことがあってはならず、私たちの試

練は単に「善を行うこと」ではなく、「善を行うことに忍耐強く続けること」であることを覚えなければならない。また、私たちは「神の全武具」を身に着け、この「悪の日」に立つことができるようにしなければならない。 - エペソ人への手紙6:13

## 金よりも尊い

使徒ペテロは、現在特に精錬されている金に象徴される「選ばれた者」のクラスに注意を向けます。キリストのクラスについて、彼はその特別な召命を説明します。「神である父の予知に従い、聖霊による聖化を通して、イエス・キリストの血の散布への従順へと選ばれた者たち。あなたがたに恵みと平和が豊かにありますように。」 - 1ペテロ1:2

使徒は続けて言います。「私たちの主イエス・キリストの父なる神は、豊かな慈しみに従い、イエス・キリストの死からの復活によって、私たちを生き生きとした希望に再び生み出してくださいました。それは、天に備えられている朽ちない、汚れのない、消え去らない相続物です。あなたがたは、神の力によって信仰によって救いに至るまで守られているからです。あなたがたは、今しばらくの間、必要に応じて、多くの試練（ギリシャ語：試されること）によって悲しんでいるにもかかわらず、大いに喜んでい

る。」ペテロは、信仰の試練が火で試される金に似ていると結論付けています：「あなたがたの信仰の試練は、火で試される金よりもはるかに尊いものです。、それは滅びるものですが、試されることで、イエス・キリストが現れる時、賛美と栄光と誉れを得るためです。」 - 3-7節

これが私たちの証しです：「彼は私の行く道を知っている。彼が私を試された時、私は金のように出て来る。」 - ヨブ23:10